



平和研講演会シリーズ 2007  
2007 IIPS Lecture Series  
“国際社会の変容と日本の役割”

駐日ロシア大使

ミハイル・ベールイ閣下

「ロシア対外政策の枠内での日ロ関係」

2007年5月31日 於:ホテル ニューオータニ

世界平和研究所は、日本財団の助成を受け、5月31日、ホテル・ニューオータニにおいてミハイル・ベールイ駐日ロシア大使による「ロシア対外政策の枠内での日ロ関係」に関する講演を開催した。

ベールイ大使は、講演の冒頭、現在、国際秩序は急速に変化し、長年世界の多くの国を緊縛してきた一極型世界という神話が崩壊し始め、西側世界は今やグローバリゼーションの独占的地位を喪失、国連などの国際機関では、世界主要国による集团的リーダーシップが進行していると指摘し、さらに以下のように続けた。

近年のロシア外交にとって、進化一体化されたアジアは重要であり、幅広い地域協力関係の構築はロシアの将来戦略である。

現在、ロシアはアジア太平洋地域において二国間ならびに多国間協力を展開しているが、なかでも、最重要事項であるロ中両国関係については世界からも多大な関心が寄せられている。確かに両国関係は戦略的パートナーシップと呼ばれる高度に活発化された動きを続けているし、インドとの全面的な戦略的パートナーシップの推進・発展もある。



ロシアと日本の関係については、両国はアジア太平洋地域における両国関係の重要性を深い次元で理解しており、例えば六カ国協議における当事者として地域の平和と安全のメカニズム構築への作業を行なう他、新たな脅威としてのテロリズムや組織犯罪への対応、大量破壊兵器不拡散にも共に挑戦している。

ロシアは日本にとって最も近い隣国であり、日本をアジア太平洋地域における外交政策の最重要な優先順位のひとつとしている。2003年には、両国の建設的パートナーシップの道筋が示された『Action Plan』が採択されたが、以降、両国関係はさらに良好なものとなってきている。

ベールイ大使は、こうした両国の協力関係を示す具体的事例を幾つか指摘した上で、両国は将来に向けた強い絆のために努力を続けるものであると述べて講演を締めくくり、さらに来場者からの多分野にわたる質疑に応じられた。

